

## ● 新指定答申文化財の概要

【種別】無形民俗文化財（民俗芸能）

【名称】日置神社の神事踊

（ひおきじんじゃのしんじおどり）

【所在地】伊賀市下柘植 2260（日置神社）

【保持団体】下柘植宮踊保存会、愛田かつこ踊り保存会

【概要】

毎年4月10日、日置神社（伊賀市下柘植）の春祭に奉納されている踊りで、県内で「かんこ（鞆鼓）踊り」と総称される、風流（ふりゅう）太鼓踊りのひとつです。下柘植には嘉永元（1848）年の歌本が残っており、江戸時代から雨乞い祈願や祇園祭の除災のために踊られてきました。

基本的な踊りの体形は、神殿・鳥居を背に貝吹きと歌が並び、鬼と踊り子は2列縦隊となります。踊り子は上衣が紺の短着物に角帯を締め、下衣は裁着袴（たっつけばかま）、手先は白手甲、両足は白足袋に草履を履きます。背には、「オチズイ」と呼ばれる花飾りを負い、胸前に締め太鼓を付けます。「オチズイ」は、細く割った竹に紙を染めた花と葉をつけて枝垂れ桜に似せた背負い飾りで、伊賀及び周辺地域のかんこ踊り、祇園祭に特徴的なものです。

日置神社の神事踊は、中世末期の風流踊りの系譜をひく、伊賀地域の太鼓踊りの形態をよく伝えていきます。また、「じんやく踊り」という、伊賀地域を中心にして近江・山城・大和・伊勢など広域に分布する、特徴的な曲を伝承しており、芸能の発生や成立過程を知る上で重要な民俗芸能といえます。

